一般社団法人

子ども村ホッとステーション

2021年度
WAMネット
事業報告書

WAM助成
独立行政法人福祉医療機構 社会福祉振興助成事業

CONTENTS

目 次

03　ごあいさつ

04　**子ども村：ユニバーサルステーション**

07　ボランティアの参加について

08　アウトリーチ活動

09　〔ユニバーサルステーション〕参加者アンケート結果

10　**子ども村：中高生ホッとステーション**

11　〔中高生ホッとステーション〕参加者アンケート結果

12　**子ども村：ふぁみ～る**

14　その他の活動紹介

15　たくさんの応援に感謝して

3つのプログラム

多世代共生のための居場所
ユニバーサル ステーション

【活動日】月・水・木曜日
【時　間】10:00～15:00

【個別相談】火曜日
【時　　間】16:00～19:30

子どもの居場所
中高生 ホッとステーション

【活動日】木曜日
【時　間】17:00～20:00

ふぁみ～る
子育て交流サロン

【活動日】火・金・土曜日
【時　間】10:00～15:00

ごあいさつ

幸せは安らぎの中にある。「一人じゃない」をここから始めてみる。

設立・活動・法人化

子ども村：中高生ホッとステーションは、2014年に、充分に支援が行き届いていない、家族機能が弱っている中学生、高校生が社会人になるまでのサポートをするために設立されました。そして2021年10月に一般社団法人を取得し、今後に続く地域での子ども支援の基盤を作りました。

昨年度は「多世代の居場所作り」を週3日始め、本年度は0歳から3歳までの子どもと親の居場所作りである「子ども村：ふぁみ～る子育て交流サロン」を開設しました。地域での親子を様々なステージから支援する体制となりました。

「子どもが第1」という軸を持ちながら

コロナ禍ではこれまで求められていた「人が集まり、団らんを作る」ことや、「食事を一緒にとる」ことがリスクとなるようになりました。

何を大事にしていくべきか、どの様に活動をしていくのかと模索の昨年に続く1年間でしたが、スタッフ全員が「子どもが軸」を確認しながら、子ども達が求めているものをどのように提供するかを考え続けてきました。活動自体をその時の状況に応じて柔軟に変形させていくことは軸があるからこそ、できることであると実感をしました。

多世代の多様な価値観のある集団

多世代の色々な価値観のある人の集団の中では「これもありだけど、あれもありかも」という見方になります。たくさんの人がいればいるほどその見方は増えていきます。

そもそも人の性格、考え、生き方は千差万別でありました。そのような中で子ども達が育つと自分も肯定されますが、他人を否定することもしなくなります。すでに育ってしまった大人についても、たくさんの人がいれば共感してくれる人がだれかいます。

多様性を肯定できる場

生きにくい子どもだけでなく、最近では様々な生き方をする若者たちも見られるようになりました。「まずは現在のあなたを受け入れます」ということは大変難しいことです。でもその現在のあなたの痛みや悩みを実際に横にいて感じると、「大変だったね！」という言葉がまずは必要なのだと感じます。

肯定、共感の中から「幸せ」が見える

「一人ではない」と思える自分には安らぎがあります。安らぎのあるところに幸せがあります。

そんな幸せを日々感じながら活動をしています。ここには、育つ環境をみんなで作りながら、全員がゆっくりと時間をかけ自分自身を進化させていく長い工程を一緒に過ごす仲間がいます。

一般社団法人 子ども村ホッとステーション
代表理事　大村みさ子

＼多世代共生のための居場所／

ユニバーサルステーション

今年で二年目を迎えています。ユニバーサルステーションでは不登校の子どもたち、高齢の方、引きこもりや認知症の当事者の方々と多世代の様々な方達がきままに集う居場所となっています。多世代の様々な価値観のある中で、子ども達は学校とも家庭とも異なった伸びやかな居場所となり、大人達にとっても子ども達の新しい風やエネルギーを感じる場所となっています。

ユニバーサルステーションの1週間

月曜・水曜・木曜の午前10時から午後3時30分の間、学習から遊びとそれぞれが自由な日常スタイルで行います。不登校の小学生から高校生、高校中退の子ども達も学習やゲームにと朝早くからやってきます。

月曜と木曜にはバジルの袋詰め作業を参加者みんなでやっています。ここでは不登校で高校受験をひかえた子どもたちの受験勉強にも大学生のお兄さん・お姉さんが長期にわたりサポートをし、子ども達も真剣に真面目に学習をしています。

通　常　の　活　動

午前中バジル作業（月曜日・木曜日）はバジルが農園から3箱届くバジルを選別し、18ｇを計測して袋詰めすると商品となります。子どもから、大人までの20名前後の参加者の皆さんによる協同作業は2時間くらい和やかにすすめられています。

学　習　と　遊　び

昨年は不登校の小学校3年生から高校受験をやり直す子まで様々な学年の子どもたちが来ました。ボランティアスタッフも大学生や社会人1年目の方が加わり、非常に学習面のサポートが充実したように感じます。

また、ボードゲームや土手遊び、王子への遠足など、学習だけではなく遊びの面でも子ども達と深く関われたように思います。

1年を通して子どもたちの学習への態度が変わってきました。遊びから学習に気持ちを切り替えられないこと、声をかけても反応がないこともしばしばありました。子ども達なりの困難がそこにはあったと思いますが、それを乗り越えた子は、わかるようになる楽しさに気づいたり、その楽しさに影響を受けたりして、勉強に向かえるようになりました。

2022年1月からオンラインの学習会も実施し、ホッとに来られない状況でも学習をサポートできる環境を整備しています。様々なニーズに応えながら、今後も学ぶ楽しさを伝えていきます。

音楽教室

講師の三浦鯉登さんから、ギターやドラムなどの楽器にふれ演奏の仕方を教わり、弾けるようになったときの子どもたちは、本当に嬉しそうです。

子どもたちに人気のある曲を大人も教えてもらい歌ったり、大人の世代の歌をみんなで聴いたりと、多世代で一緒に楽しんでいます。

紙芝居

「東京したまち紙芝居の会」有志のみなさんは、多世代に向けた幅の広い内容の紙芝居を披露してくれます。この時間は子どもも大人も楽しみにしています。

囲碁

最近囲碁・将棋は子どもたちの間で静かなブームになっています。年配の男性2人は立ち上げの頃から来てくださっていて、みんなのおじいちゃん的存在です。

ボードゲーム

子どもたちは「荒川区支援センター：アゼリア」の人たちからいろいろなゲームを教えてもらいます。ゲームが始まると自然と子どもたちが集まり、たちまち歓声が響きます。月1回こちらの会場で活動をしている「おもちゃ&ボードゲームライブラリーin荒川」の団体からもゲームをおかりし、様々なボードゲームを使用することができます。

習字

毎月定期的に筆で字を書く環境を作っています。筆を持ちおそるおそる墨を付けて半紙に自由に書いてゆく経験も、色々な世代で楽しんでいます。

野外遠足

飛鳥山の渋沢栄一記念館の見学とボーリングをするなどの遠出をした一日でした。初めてボーリングをする子もいましたが、そのような子もとてもよいスコアを獲得していました。

産業経済部観光振興課の主催の「猫と不思議なたからもの」リアル謎解きゲームin 日暮里に参加しました。日暮里周辺の観光スポットをめぐりながら謎解きをし、子ども達に助けられながらやり遂げることができました。昼間活動の「ユニバーサルステーション」と週1回の夜の活動の「中高生ホッとステーション」との合同企画で、荒川土手にて水遊び、花火大会、外遊びの会を開催しました。

子ども達の普段見られない表情や、多世代で気ままに時間を過ごすのびやかなひと時が、とても素敵でした。

ユニバーサルステーション

食事と居場所

令和3年度の子ども村での食事は月・水・木曜日の"ユニバーサル"での昼食です。ユニバーサルではバジルの袋詰め、趣味の囲碁や編み物、刺し子、気の合う人達とのおしゃべり、そして子ども達は学習やボードゲーム、書道、音楽、演奏などに取り組んでいます。

昼食時になると手洗いをし飛沫防止パネルを消毒して立てたり食事の盛付け、配膳を皆でフットワークよろしくやります。もちろん新しく参加の方もすぐに溶け込んでいます。黙食は味気無いですがこれも仕方ないことです。

キッチンは密にならないように調理のボランティアさんと3人体制でつくっています。調理に興味を示し希望する子ども達は手伝いをします。蔓延防止が出ていた数ヵ月はお弁当を持ち帰りにした期間もありました。

あらゆる食材の寄付を頂き食事の提供ができていることも合わせてご報告いたします。

おやつ作り

ともに調理し、ともに食べるという体験を通して子どもたちの成長を支え参加者の交流を図ろうと実施しました。「ホットケーキMIXで絶品おやつ&意外ランチ」という本を使いました。まず材料を紙に書き、本を見て手順を確認しながら作業を進めました。

「卵のMとSってどっちが大きいの?」「ml?」「大匙って?」「こっちの生地はゆるいよ」「どうやって計るの?」「油ははねるから気をつけて!」「あーいい匂いがしてきた」「膨らんだ!」など作業の進行と共に子どもたちはいろいろ学び始めました。最後は一緒に食べる人のお茶の注文を聞きに行き準備をしました。

全部整ったら「いただきます」食べながら「ちょっと甘さが足りないね」「彩りが悪いね」「すごく美味しい」など会話が交わされました。最後に片づけをして終了となります。

おやつ作りを通して生活に必要なことをトータルで学べるよう、準備、調理、盛り付け、お茶の用意、食べる、片づけるなどの一連の流れを経験できるようにしました。

結果、子どもたちは道具の扱い方にだいぶ慣れ、本を見ながら自分で作ろうと意欲的になり、見守る大人も成長期の子どもたちの可愛さを感じることが出来ました。

VOICE ボランティアの方々の声

地域ボランティアとして　荒井さん

私のボランティアのキッカケは、「日本語が出来ずに勉強に難儀している子どもの力になりたい」でした。コロナ禍で叶わず、右往左往して、子育て交流サロンのイローナを経由して、ホッとステーションにたどり着きました。提供できるのは料理になり、やるだけやってみようでスタートしました。

荒川区に生まれ育った私は、この町の人情を肌身で知っているので、すんなりはまってしまいました。おばちゃん同士のY・Yが楽しく、参加出来ることに、感謝・感謝です。

地域ボランティアとして　マリレーヌさん

2021年の夏に子供食堂の事を知り、何かお手伝いが出来たらと思い始めてホッとステーションに行きました。若者や家庭のために行われる様々な活動の内容に驚かされました。毎週親切な方々と出会い、色々なイベントに参加する事が出来てとても嬉しいです。コロナ禍の中で帰国できなくなった私ですが、若者達とボードゲームをしたり、料理を作ったりしている時は、故郷に帰って来たような気持ちになります。とにかく、感謝の気持ちでいっぱいです。

地域ボランティアとして　曽山さん

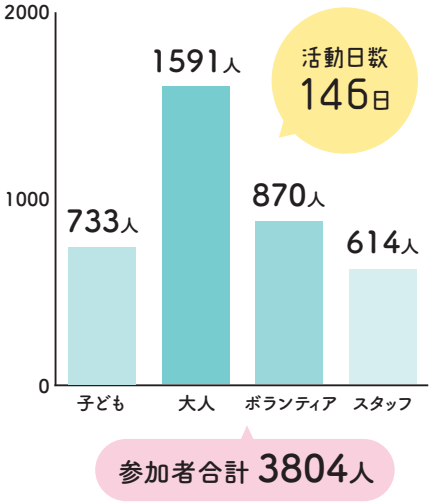
自分自身大家族の中で多世代に囲まれて育ってきた。ホッとステーションでの活動では、血の繋がりはなくても、子ども達の元気な声に囲まれ、大家族の賑わいがある。本来なら家庭教育でするべきこともあるが、地域のボランティアとして色々な人が力を出し合っている。

これからの幸せとして、このように多世代の中で過ごすことは素晴らしいと思うので、自分が参加出来ていることがとてもありがたいと思っている。

学生ボランティアとして　齋木さん

学生ボランティアとして活動に参加する中で感じたのは「子どもたちは日々成長している」ということです。一緒に遊んでいる中で、最初は輪に入れずにいた子も次第に馴染んでいき、最近では自分から周りを誘って遊んでいる姿をよく見ます。これは学生とかかわる内に交流の楽しさを学んだからこその成長なのではないかと思っています。だからこそ子どもたちにとって身近で積極的に関わってくれる存在の重要性を改めて実感しました。

▼ 2021年度のボランティア参加者延べ人数



東京都立大学と連携をして

東京都立大学では、不登校や外出が難しいお子さんの支援に看護学科・作業療法学科の学部生が関わらせていただいております。中高生ホッとステーションの支援者や看護学科・作業療法学科の教員による研修を受講し、お子さんの学習支援や話し相手になるフィールドワークを経て、荒川区教育センターのスクールソーシャルワーカーの支援のもとで遊びの出前をしながらお子さんとの関係性を構築し、子どもの居場所活動につなげる支援をしています。

また、ステーションの支援者、スクールソーシャルワーカー、学生、教員による多機関・多職種による事例検討会でお子さんとご家族を多角的に捉える視点を学び、家族の小さな前進をともに喜ぶ関係性を築いています。学生たちは活動から「家族を丸ごと支援する」という理念を学び、病院や地域に巣立って行きます。私たちは彼らがいつか地域にソーシャルファミリーという種を蒔き、発展させ、次世代に温かい絆のバトンを渡してくれると信じています。

木村 千里
東京都立大学大学院人間健康科学研究科看護科学域（リプロダクティブヘルス看護学）
健康福祉学部（母性看護学）
助産師・保健師・看護師・家族相談士

コロナ対応について

室内の消毒は毎日始まる前と後に行 っています。
空気清浄機を2 台稼働させ、サキュレーターもまわしながら換気を行っています。
会食はアクリル板の使用や、黙食の徹底などをしずっと継続してきましたが、状況に応じてお弁当の持ち帰りにしたりと形を変えています。コロナの状況に応じて対応も変化さえながら、「孤立させない」環境を提供し続けています。

アウトリーチ活動

昨年に引き続き、家に引きこもっている子ども達が自宅外への世界に繋がるサポートを行いました。子ども達は家族との関係や、思春期の揺れ動く気持ちの中で、行きつ戻りつしながら1ミリずつ進んでいるのを感じました。

アウトリーチスタッフが子どもに寄り添うことで、子ども達の気持ちを引き出し、言語化し第3者に伝え、次のステージに繋げていくことができました。

アウトリーチ活動の内容

01 訪問

本年度は自宅に訪問して、自宅で学習や対話が出来ないようなケースもあり、アウトリーチスタッフが自宅近くの公共の施設を使って学習サポートや相談などをしました。
また、自宅とホッとステーションの行き帰りの送迎をアウトリーチスタッフが子ども達の心の寄り添いをしながら実施しました。

02 面談でのサポート

教育センターで、スクールソーシャルワーカーと連携をしながら、スクールソーシャルワーカーが教育センターで子どもと面談をするケースにアウトリーチスタッフが立ち会い、子ども達に寄り添い、子ども達の心の中の気持ちを引き出すお手伝いをしました。

03 オンラインサポート

体調の不調、コロナ禍での自宅待機などで自宅にいる子どもにズームを使って学習指導ゲームなどを実施しました。

04 継続的なサポート

ホッとステーションの会場での個別の継続的なサポートとして同じアウトリーチスタッフが子どもとの関係作りを目的に学習サポートや談話をしました。

05 食事のサポート

コロナ感染で家族全員が外出出来なくなったケースで、食材の支援、お弁当の宅配などをしました。

06 生活のサポート

保護者が入院のため生活が困難となった子ども達の生活を支援しました。

07 医療のサポート

行政の制度に繋げるために医療機関にかかるサポートをしました。

▼ 実施データ（87件）

サポート内容	人数	回数
不登校アウトリーチ	11	23
医療サポート	1	4
生活支援	1	13
コロナ支援（学習・生活）	9	31
SSWサポート	3	7
学校、家庭訪問	4	9
合計	29	87

実施内容（一例）

【中3女子】

ホッとステーションに通うことが出来た段階からのスタートでしたが、夏休み以降ホッとステーションに参加しなくなり、近隣の区立ふれあい館などの公共のスペースで学習、相談などを行いました。その後もラインでのやりとりを継続し、受験まで繋ぐことができました。

【小5男子/中1男子/中3男子/中3女子】

コロナ感染のため自宅待機になった子ども達をズームで学習支援、相談などを行いサポートしました。

【20代女性】

区役所での手続き、相談、医療機関への同行など、制度に繋げるサポートを行いました。

アウトリーチスタッフ研修

●**子どもの権利条約・寄り添い支援・傾聴技術・母子関係と家族支援**
講師：都立大学護学科　木村千里先生

●**不登校・ひきこもりの原因と支援・子どもの発達特性**
講師：都立大学作業療法学科　伊藤祐子先生

2022年1月8日
東京都立大学にて開催

ユニバーサルステーション
参加者等アンケート結果

目　的：ユニバーサルステーションの活動に対する満足度や期待について質問することで、活動の成果と課題、参加者等のニーズを把握し、今後の活動の改善につなげる基礎資料とする。

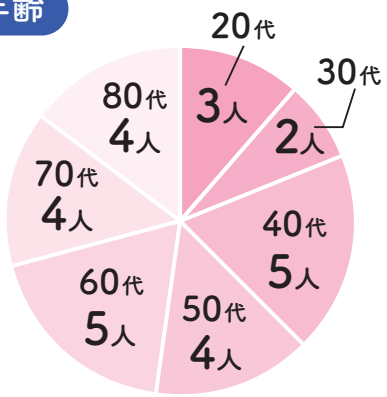
対象者：ユニバーサルステーションに参加している方（学習支援等のボランティアを含む、ただし不登校の子どもを除く）

調査方法：googleフォームまたは質問紙を使用。※自分で書いて回答することが難しい方に関してはスタッフが聞き取り入力

回収期間：2/1（火）→2/10（木）

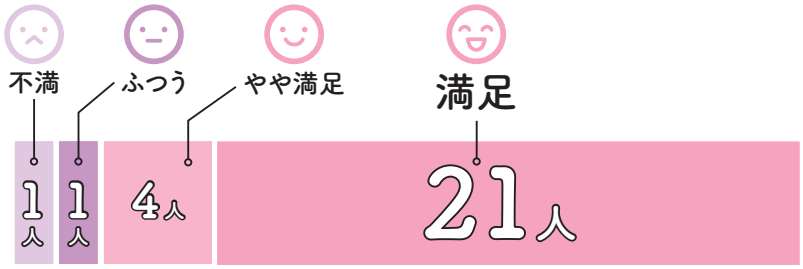
回収状況：計27件

年齢



満足度

ユニバーサルステーション参加者の満足度（人数）



参加者の高い満足度を得ることができた。

利用している理由

- 活動が楽しいから 22人
- ボランティアとして役に立ちたいから 19人
- 多世代の人と交流できるから 18人
- ボランティアの対応が良いから 15人
- 食事ができるから 15人
- バジル作業が楽しいから 15人
- みんなとおしゃべりできるから 15人
- いろいろ体験ができるから 10人

「楽しい」と同時に「役に立ちたい」と考えている方が多い。支援者・被支援者を分けない関係に。

希望する活動

多世代交流	16人
パソコン・スマホ教室	10人
音楽	9人
調理	8人
健康体操	8人
脳トレ	7人
レクリエーション	7人
手芸	6人
バスハイク	6人
書道やアート活動	4人

希望するものは多様だが、
半数以上の方が「多世代交流」を希望している。

活動の成果　参加者の高い満足度を得ることができた。

活動への期待　多世代が交流する活動が大きかった。

活動の特長　支援者・被支援者を分けずに、お互い助け合いつつも、楽しんで過ごせるという点があった。

＼子どもの居場所／

中高生ホッとステーション

木曜夕方の中高生ホッとステーションでは、コロナ禍でも人のつながりを絶やさないよう続けていきました。ここでは普段のホッとの様子についてちょっとだけ紹介します。

午後5時。学校おわりの小学生が入ってきます。消毒手洗いしたらまず勉強。ボランティアに聞いたりしながら進めていきます。中学生なども続々と到着して勉強が始まります。30分の勉強が終わった子はみんな自由に過ごします。そしてごはんは6時から。感染対策のため、食事スペースは席がアクリル板で区切られ、席が空いたら食べるローテーション式で、食事中はおしゃべりなしというルール。工夫してなんとか食事の提供を続けています。そして順次食事が終わったらみんなが思い思いに過ごす時間。ボードゲームで盛り上がる子たち、ギターやドラムを演奏する子たち、ボランティアの大学生と一緒にイラストを描いている子。そうしてあっという間に終わりの時間。今年は感染対策に試行錯誤しつつ「日常」を守る、そんな1年でした。

ホッとステーションの中の遊び

白井美典

この子ならどんな遊びを提案したら生き生きするのだろう。毎度頭を悩ませます。今期は、テレストレーション（絵で描く伝言ゲーム）が1番人気。小学生から60代まで大いに盛り上がりました。縫い物やアート制作も良い時間です。大人も一緒に作る中で心が通い始めます。

コロナ禍でも子ども達の今を大切にと始まった荒川土手での企画では、手持ち花火を初めてする子や草の上に大の字に寝転ぶ子、いつもより深い話をする子や、思いきり体を動かす子など、子ども達の生き生きとした様子やスッキリとした良い顔が見られ、私たちにとっても、嬉しい時間となりました。

子ども達の様子について一番感じることは、やっぱり「褒められたいし、自分を認めて欲しい。」ということ。表には見えない出来事があって今ここにいる子もいる。この子達が独り立ちしていくときに、自分はどうせ、、と自分を卑下することが減るように、その子の良さを認め、見守っていく。今を大事に過ごす。一方で今が人生の全てではない。楽しみ、幸せは自分で作っていくもの。

見守るだけでなく、あなたの歩幅の一歩を踏み出す応援団になろう。そんな事を私自身学ばせてもらいました。

遊びのスタッフ

清水 隆幸

2021クリスマス会は三人の中学一年生に素晴らしい経験をさせてもらいました。春から来だした三人は、部屋の隅にあったエレキギター・ベース・電子ドラムに興味を持ち、スタッフが一から教えながら遊んでいる中、バンドを作り、年末発表をしようという事になりました。様々な困難な状況もあり、思うようには練習できませんでしたが、子どもの集中力や吸収力に驚き、スタッフは褒めまくっていました。そしてなんと、10回位しか練習できない中、アメリカのソウルファンクバンドのアースウインド＆ファイアーの「セプテンバー」という曲をみんなの前で立派に発表することができました。

子どもたちは、興味をもてば素晴らしい力を発揮するのだと感動しました。演奏後の集合写真は、自分の宝物です。これからも、寛容な大人たちのいる環境で、遊びや楽器演奏など、子どもたちと一緒に楽しく笑いながらいろいろな体験・経験をともにしていきたいと思います。

みんなの晩ごはん

木曜日のホッとステーションの夕食では小学生から高校生までの幅広い年齢の子どもたちが集います。この日の美味しい食事は“荒川区更生保護女性会”と“尾久母の会”の方達が当番制で作ってくださいます。子ども達の好みそうな、そして栄養面も考えて頂いた献立をたててくださいます。きっと子ども達の喜ぶ顔を思い浮かべて作ってくださっているのだと思います。

コロナの影響で持ち帰りのお弁当が数ヵ月続いていますが、休まず続けて頂き心より感謝いたします。

中高生ホッとステーション
参加者等アンケート結果

目　的：ホッとステーションの活動に対する満足度や期待について質問することで、活動の成果と課題、参加者等のニーズを把握し、今後の活動の改善につなげる基礎資料とする。

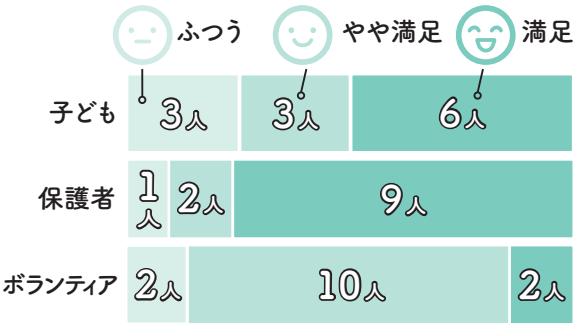
対象者：(1)中高生ホッとに参加している子ども（小学生～18 歳程度）
(2)参加している子どもの保護者
(3)ボランティア（ボランティア登録済みの人に限る）

調査方法：googleフォームを使用。※一部の小学生等に関しては保護者が聞き取って入力

回収期間：2/1（火）→2/10（木）

回収状況：(1) 子ども→12 名（30%程度）
(2)保護者→12 名（40％程度）
(3)ボランティア→14 名（60%程度）

Q. ホッとステーションについての全体的な満足度を選んでください。



Q. ホッとステーションに参加するようになって前向きに変化したことについて、あてはまるものを選んでください。

前向きに変化したこと	子ども	保護者
悩みが解決した、または改善に向かっている	7	1
学習の仕方、態度が身についた	3	4
友だちができた	6	4
人と話せるようになった、社会性がついた	5	5
明るくなった		3
今までより食事がとれるようになった	3	
その他	0	3
変わったことは特にない	3	1

Q. ホッとに参加したことでお子様がどのように変わったか（変わらなかったか）教えてください。※自由記述、保護者対象

- 自分の意見を言えるようになった
- 年下に譲れるようになった
- 触れ合いが増えた
- 視野が少し広がった
- 趣味ができ、友だちと一緒に楽しんでいる
- 大人の友達ができたり、父親にはしないお兄さん達に甘える姿を見て第三の居場所の必要性を感じた
- いろいろ体験ができるから
- 自信がついた顔になった
- 少なくとも死んではいない
- 社交的になった
- 何をしたのか話したがらないので、他の方とうまく遊べているのかわからない
- 学習に溶け込むようになった

Q. ホッとの活動の良いと思う点・気になる点（ボランティアに質問）

良い点　多世代・多様な属性の人がいること(6件)、支援の多様性(2件)、学校外の居場所(2件)

気になる　子どもに関する情報共有等(3件)

活動への期待　「今」の居場所という点に加え、「将来」の自立に向けた学習・進路等の支援があった

活動の成果　コミュニケーションやつながる機会が得られるだけでなく、それらを通して子どもが社会性や「つながる力」をつけることにつながった。

＼子育て交流サロン／

ふぁみ～る

令和3年度より、荒川区子育て支援課から子育て交流サロン事業の補助金を得ることができ、子ども村ふぁみ～る子育て交流サロンをスタートさせました。

このサロンは、子ども村ホッとステーションがめざすソーシャルファミリーに、0歳～3歳までの子どもたちも加わり、0歳から20歳までのすべての子どもたちの成長を支える活動の一歩のはじまりです。

ところが4月27日にオープンセレモニーを計画した直前に、東京都よりコロナ感染緊急事態宣言の発令(4月25日～5月11日)となり休室となってしまいやっと5月14日よりスタートしました。活動場所は、元高齢者ディサービスの施設だったお部屋であり、都電通りの全面窓で、太陽がさんさんと入り感染予防のため窓は常時開けっ放しにしていますが、気持ちのよい風が部屋をとおります。窓の下に、都電が来ると、子どもたちは、窓から都電を眺めて手をふります。

子どもたちの成長をみんなで喜びあう日々

ふぁみ～るが始まり、遊びに来た子どもたちはまだ、お座りもできなかった赤ちゃん。来るたびに、寝返りができるようになった、はいはいをするようになった、つかまりりだちができた！ いっぽ歩いた！ とみんなで大喜びをしています。好奇心も旺盛の子どもたちは、立ち入り禁止区が大好き。

子どもたちにとっては、ここは冒険の場所です。子どもたちの成長にあわせて、頻繁におもちゃを増やしたり、入れ替えたりしています。

多世代のボランティアさんの参加

現役保育士の木村鈴子さんは、火曜日と金曜日に参加してくれています。利用するお母さんたちの多くが、育児休暇中で、4月から保育園に預けて職場復帰を予定しているので、保育園への関心も高く、保育園情報はリアルで役立つのです。また、「はじまるよ♪はじまるよ♪」でスタートする手遊びとパネルシアターは、子どもたちに大人気。最初は、お母さんの膝の上で見ていた子どもたちは、今では鈴子さんの前にちょこんと座り、一緒に手振り見ぶりでそして最高の笑顔を向けています。

また、ユニバーサルステーションに参加している小学生、中学生も小さな子どもたちのために、プラレールを組みたててくれたり、ダンボールの家を作ってくれたり、おもちゃの消毒、清掃も手伝うなど大活躍です。

下町紙芝居の会

毎月第1・3 金曜日は、わらべうた遊びと紙芝居の日です。下町紙芝居のみなさんが、2人ずつボランティアで来所し、最初に親子でわらべうたあそびでふれあいを楽しみます。

赤ちゃんが楽しめる紙芝居を選ぶのは、とても大変ですが、繰り返しのことばあそびやシンプルなお話を選んで上演してもらっています。

大人のための朗読会

子育て中は、なかなか読書をしたり自分のための時間がとれません。毎月最終金曜日は、朗読活動を長年取り組んでいるスタッフが、10分程度の短い時間ですが、お母さんのためのエッセーを選び朗読する時間をとっています。

コロナ感染がおさまったら、コーヒーを飲みながらお話を聞くことができる朗読カフェができたらいいなぁと思っています。

パパママカメラマン 壁掛けアート　in ilona

「子育て交流サロン　ilonaおやこの縁側」で作成した季節の壁掛けアートを、ふぁみ～るに参加する親子のために提供してもらっています。

四季と季節行事などをテーマに、布で作成された手作りのアートの前で、子どもたちの成長の記録をスマホにおさめられます。

ふぁみ～る・音楽あそび　大村みさ子

毎月1回開催のこの活動では、保護者の方々に向けて安らぎの一時となるよう、ピアノの小曲のミニコンサートから始まります。子ども達一人一人のお返事のリズム打ち、手遊び歌に引き続き、歩いたり、走ったり、保護者の方の膝でだっこされたりしながら音楽にあわせて体を動かします。子ども達に覚えて欲しい童謡や唱歌、保護者の方に歌って欲しい子守歌も皆さんで歌います。

0歳から3歳までの幅の広い年齢の子どもと保護者の方々が対象ですが、日常で音楽をもっと楽しんで欲しいと思います。

助産師さんとおしゃべり　恵美須文枝

利用者の多くが1歳前後の子どもたちで、育児相談は離乳食の進め方や保育所選びが主ですが、時には断乳や夜泣きの悩みなどもあります。ここに来た子供たちは、全員が健康にすくすく育っている母子で、その成長ぶりにスタッフが元気をもらう機会にもなっています。

コロナ禍で外出できない母子はどうしているのだろうか、どんなにかわいい我が子といえども、一日24時間、片時も休めない育児という拘束に、疲れない母親がいないはずはない、馴れない子育てに戸惑い、どう子供に接しているのか、核家族のマンションの一室で、一日中閉じこもって煮詰まってしまう母子のないことを祈るばかりの日々が、いまだ続いています。

子育ては、その始まりが何といっても肝心です。出産後退院してから、育児の初めの時期に躓くことさえなければ、子供の成長と共に親も育っていきます。子供の反応がはっきりしてくるにつれ、子供と母親の関係は太く強い絆になっていきますが、しかし、初めての母親の誰しもが、育児の全てが未知のことばかり、言葉の通じない子供のひとつずつを確かめながら、子供の特徴を掴んでゆかねばなりません。

そして、子供のいのちの全てが、自分の肩にのしかかっていると考えると、其の状況の辛さは、味わっている人にしかわかりません。人間である以上、同じ子供や同じ母親がいるはずもなく、逃れられない関係と閉塞感が、母親を苦しめることのない事が大事です。せめて「ふぁみーる」に来た時くらいは、少しでも気が休まる場所として、一息つける時間を過ごしてもらいたいと願います。

「お休みどころ」を必要としている母親が、気軽にいつでもアクセスでき、そして、役立つ情報を必ず得られる場所になるよう、これからも努力していきたいと思います。

その他の活動紹介

子どもを軸にした活動のために、他団体との連携により、色々な機会やサポートを行っています。多くの人と関わり、より多くの経験をすることで、この先を生きるためのチカラをつけていきます。そのためのコラボレーションです。

荒川たびだちの会　活動報告

荒川たびだちの会は、不登校やひきこもり、発達障がいの方の家族会です。ひきこもり経験者や相談支援の職員なども参加する定例会でホッとステーションを使わせていただいています。定例会はその日集まったみなさんがお互いの話に耳を傾け、一人ひとりの困っている状況や、ヒント、気づきを共有します。今年度は他地区では中止となる中、感染対策を十分に講じて開催したおかげで、相談が出来た方が多くいらっしゃいました。

定例会以外にも、10月に会主催の「干し柿つくり」を行いました。ホッとステーションを会場にしたおかげで感染対策もしっかりできました。暖かい日差しの中、笑顔も溢れ、楽しい活動となりました。
干し柿は約200個出来上がり、皆で喜び合いました。今後もホッとステーションと連携して実施していきます。

おもちゃ& ボードゲームライブラリーin 荒川　きき

毎月第3日曜日の午前に子どもから大人まで多世代の方々が集まり、みんなでボードゲームを楽しむ活動を子ども村ホッとステーションで取り組んでいます。現在、50種類あまりのボートゲームがあり、ホッとステーションの子どもたちの日々の活動に活かされています。子どももボランティアさんも輪になりボートゲームを楽しむなかで、自然に会話が弾み大きな笑い声が聞こえてくると本当にうれしく思います。

青空テラスカフェ

青空テラスカフェは、認知症の方、ご家族などが集う場所です。地域住民のボランティア団体、町屋青空テラスのメンバーが主体となり運営されています。人と語り合える憩いの場です。広い窓から青空を眺め、カラフルなチンチン電車を見下ろす事の出来る恵まれた居場所。笑顔のカフェは、毎月第一日曜日の10時から11時30分オープンしています。

無料の学習支援教室　ソライロ

ソライロは、荒川区の中学3年生を対象に、都立高校合格を目指して学習支援をしています。メンバーは大学生ボランティアが中心で、遠方からも参加しているため、駅からのアクセスが良いこちらの会場をお借り出来て、とても助かっています！

活動は第1・第3・第5日曜日の12時半～18時半。英数国理社の中から1日3教科を学習します。入試に出やすいポイントや解き方のテクニックなど、勉強が苦手な生徒でも楽しく授業を受けられるよう工夫しています。

1日の終わりには、生徒とボランティアが輪になってトランプやゲームを楽しむなど、受験勉強を頑張る場所だけでなく、温かい居場所にもなっています。また今年度も新型コロナの影響はありましたが、オンライン授業を取り入れながら、臨機応変に対応しています。引き続き、全員の志望校合格を目指して、頑張ります！

たくさんの応援に感謝して

子ども村ホッとステーションの活動は、個人、団体、企業のみなさん、行政、社協からのご支援により支えられています。

また、2年間にわたりWAMネットより助成金をいただき、多世代共生ユニバーサルステーション事業とアウトリーチ事業にチャレンジできたことに、心から感謝申し上げます。

◆佐久間耳鼻科クリニックドクターとグループホーム　「かり～の」様

令和2年度WAMネット助成でスタートした子ども村ユニバーサルステーションは、グループホーム「かりーの」の理事長である佐久間院長先生のご厚意で会場を貸していただけることになったことは、幸運でした。令和3年度からは、子育て交流サロンも始まり、バギーで赤ちゃんを連れてくる親子の利用にあたっても、バリアフリーであること、大きな窓から差し込むあたたかな日差しのなかで、みんながホッとできる居場所となりました。

さらに令和3年度より、あらかわ子ども応援ネットワークの主催で、ひとり親家庭のためのパンリー活動の会場としてお隣のガレージも貸していただくことができたこと、心から感謝申し上げます。

◆企業組合あうん&一般社団法人あじいるの皆様

毎月2回あうんにパルシステムから寄贈される新鮮な野菜を提供していただいています。

また、資源カフェを取り組むあじいるのみなさんに、パントリー終了後にでるたくさんのダンボールを取りに来てもらい、その売り上げは、あらかわ子ども応援ネットワークに寄付をしていただいています。

◆様々なボランティアの皆様

ユニバーサルステーションは、参加者みんながボランティアであり、お互い様の関係をつくることを大事にして取り組んでいます。多世代との交流を通し、子どもたちの成長を支えてくれます。

◆アシタネフューチャーズ　山野邉様

ユニバーサルステーションの活動のなかで、子どもも若者も高齢者もみんなで一緒にできるバジル作業を仕事として提供してくださっています。

◆(株) トーダン様より

地元荒川区東尾久にあるカレンダー制作会社トーダン様からは、令和2年度に続き、活動のための支援金をご寄付いただきました。大切に使わせていただきます。

◆食材のご支援～子ども100円、大人200円の低価格で昼食を提供

子どもたちの成長を応援したいと地域の方々や個人の方々からお米、お菓子、果物、乾麺、野菜などの食材をたくさん届けていただいています。

そして、調理ボランティアさんは、食材と一緒に届く気持ちを大事に、心こめて調理をしおいしいごはんを提供しています。

あらかわ子ども応援ネットワークを通し、地域のみなさんや企業等から届く食材も使わせていただいています。ありがとうございます。

◆賛助会員の皆様

私たちの活動のスタートからずっと見守り支えてくださる賛助会員の皆様に感謝申し上げます。子どもたちのソーシャルファミリーのひとりとしてこれからもご支援をお願いいたします。

子ども村ホッとステーションの活動を応援してください

◆支援内容

以下①～③のどれかをお選びください。

※ ①、②は継続的にご支援をお願いします。

① 賛助会員（個人）／年間3，000円 ※

② 賛助会員（団体）／年間20，000円 ※

③ 寄付　　／ご希望の金額

◆申込先・問合せ先

一般社団法人　子ども村ホッとステーション

【代表】大村　みさ子

【電話】03-6240-8571 ／ 080-5095-5055(大村)

【FAX】03-3819-0847(大村)

【住所】荒川区町屋2-21-2, フレスコ町屋201号室

◆申込み方法

郵便局からの振り込みをお願い致します。

（振込料はホッとステーションが負担致します）

※振込の控えを領収書とさせていただきますので大切に保管してください。

※現金にて直接お渡しいただくこともできます。

【ゆうちょ銀行・振替口座】

口座記号番号：00180－1－293667

口　座　名　：ｺﾄﾞﾓﾑﾗ ﾁｭｳｺｳｾｲﾎｯﾄｽﾃｰｼｮﾝ

【他の金融機関からの振込の場合】

店名：019　　店番：019

預金の種類：当座預金

口座番号：0293667

口 座 名 ：ｺﾄﾞﾓﾑﾗ ﾁｭｳｺｳｾｲﾎｯﾄｽﾃｰｼｮﾝ

一般社団法人
子ども村ホッとステーション

〒116-0001 東京都荒川区町屋2丁目21-2 フレスコ町屋201